重要文化財 「高野大師行状図画」 地蔵院　弘法大師空海の一代記。
空海が幼少の時、仏像を自ら彫り、小祠に仏像を祀るなど、将来仏教者となる片鱗がみられたという場面（「幼稚遊戯」）

霊宝館だより

題字・畠野光義師

霊宝館だより　第142号
令和5年4月9日発行
和歌山県伊都郡高野町高野山306
公益財団法人高野山文化財保存会
高野山霊宝館
電話0736―56―2029
URL https://www.reihokan.or.jp

第142号　目次

宗祖弘法大師御誕生一二五〇年大法会記念展のご案内……2～3
高野山の考古学（二十八）……4～5
特集高野山……6
霊宝館日記2……7
高野山霊宝館からのお知らせ……8

宗祖弘法大師御誕生1250年 大法会記念展

「お大師さまから・お大師さまへ」

令和５年４月15日（土）～
10月９日（月・祝）

毎月21日（弘法大師の日）ご来館の方にプレゼント差し上げます。

利用案内

■開館時間
■11月1日～4月30日　8時30分～17時00分
■5月1日～10月31日　8時30分～17時30分
■休館日　年末年始
（展示替えに伴い臨時休館あり）

■拝観料　大人　1300円
高・大学生　800円
小・中学生　600円
高野町に住民票がある方、高野町内の学校に在籍する学生の方は入館無料です。
（住所記載の証明書提示要）

■専用駐車場あり

宗祖弘法大師御誕生一二五〇年大法会記念展

「お大師さまから・お大師さまへ」

令和5年4月15日(土)～10月9日(月・祝)

1期　令和5年4月15日(土)～5月28日(日)
2期　令和5年5月30日(火)～7月9日(日)
3期　令和5年7月15日(土)～8月27日(日)
4期　令和5年8月29日(火)～10月9日(月・祝)
※臨時休館日　4月10日(月)、7月10日(月)

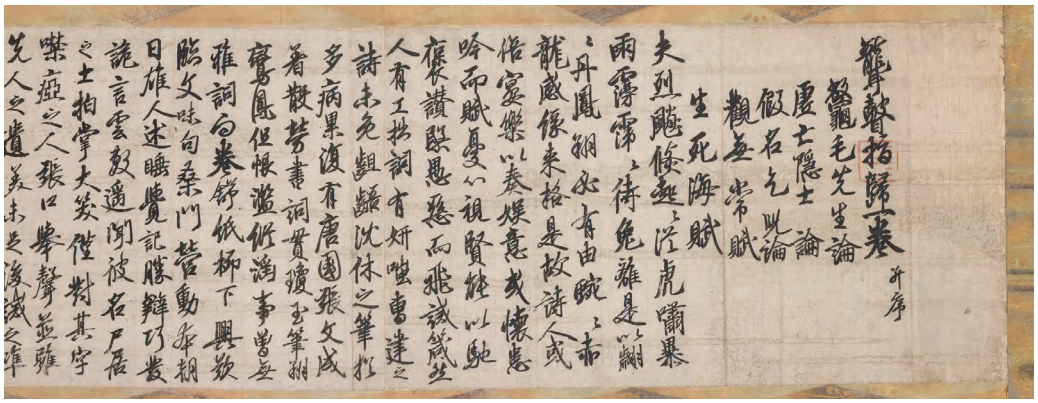
今年は、宝亀五年（七七四）に弘法大師空海（お大師さま）が御誕生して、一二五〇年目の年に当たります。これを記念して、ゆかりの文化財を展示し、現代に残る名宝を通じてお大師さまの足跡を紹介します。また、入定されてからも大師のもとに奉納された文化財も合わせて展示します。脈々と受け継がれてきたお大師さまへの信仰を感じとってください。

1期・2期の主な展示品

■絵画

国宝　勤操僧正像　普門院【2期】
重文　文殊菩薩像　宝寿院【1期】
重文　高野大師行状図画　地蔵院【1～4期】
※場面毎に展示替えあり
重文　八宗論大日如来像　善集院【2期】
重文　愛染明王像　金剛峯寺【2期】
県指定　騎獅文殊菩薩像　櫻池院【2期】
日輪大師像　三宝院【2期】
弘法大師像　西南院【1・2期】
稚児大師像　正智院【1・2期】

特別公開　高野山三大秘宝



国宝　聾瞽指帰　金剛峯寺【1期：下巻　2期：上巻】

重文　飛行三鈷杵　金剛峯寺【3・4期】

国宝　諸尊仏龕　金剛峯寺【3・4期】

国宝　勤操僧正像　普門院【2期】

重文　文殊菩薩像　宝寿院【1期】

重文　八宗論大日如来像　善集院【2期】

重文　四天王独鈷鈴（金銅仏具のうち）　金剛峯寺【1・2期】

重文　浮彫九尊像　金剛峯寺【1・2期】

稚児大師像　正智院【1・2期】

特別展示

金念珠　龍光院【1・2期】

善如龍王像　龍光院【1・2期】
両部曼荼羅真言八祖像　浄菩提院【1・2期】
丹生明神像　金剛峯寺【1・2期】
高野明神像　金剛峯寺【1・2期】
弁才天十五童子像　親王院【1・2期】
童子経曼荼羅　圓通寺【1・2期】

■工芸

重文　四天王独鈷鈴（金銅仏具のうち）　金剛峯寺【1・2期】
重文　五鈷杵（金銅仏具のうち）　金剛峯寺【1・2期】
重文　厨子入倶利伽羅龍剣　龍光院【1・2期】
県指定　白銅平錫杖　金剛峯寺【1・2期】
金念珠　龍光院【1・2期】

■彫刻

重文　浮彫九尊像　金剛峯寺【1・2期】
弘法大師坐像（萬日大師像）　金剛峯寺【1～4期】

■書跡

国宝　聾瞽指帰　金剛峯寺
十誦律　巻第二十二【1期：下巻　2期：上巻】　金剛峯寺【1・2期】
大集経　巻七　金剛峯寺【1・2期】
伝教大師最澄書状案写　金剛峯寺【1・2期】
昭和天皇勅筆「弘法」　金剛峯寺【1・2期】
三十帖策子（写本）　金剛峯寺【1・2期】

※期間中、一部展示替を行います。
※文化財の保存上、展示品が替わる場合があります。

次回の展覧会予告

令和5年度秋期企画展
「弘法大師空海の弟子たち」
令和5年10月14日（土）～令和6年1月14日（日）

高野山の考古学（二十八）

高野山の地鎮遺構⑤

―推定 般若院跡出土の地鎮遺構―

大阪大谷大学文学部歴史文化学科
狭川 真一

平成十二年（二〇〇〇）、霊宝館の南側に国宝八大童子他一一五体を納める収蔵庫が建設されるのに先立ち、発掘調査が行われました。そこからは、一八世紀以降の礎石や石垣、井戸などが確認され、絵図との照合から、これらは般若院に関係する遺構群と考えられています。

発掘された遺構面（人々が活動していた地面）は五面確認され、その中の第四面から賢瓶を埋納した土坑が発見されました。今回はこの遺構について紹介しようと思います。

地鎮遺構と遺物

さて、発見された遺構の詳細をみてみましょう。土坑は各辺が湾曲した方形で、南北三四センチ、東西三七センチを測り、深さは一二～一四センチ程度です。土坑の中央にやや北東側へ傾斜する形で一基の銅製賢瓶が据えられていました（図1A）。賢瓶は亜字形をした鋳造品で、口径五．五センチ、底径七．四センチ、高さ一一．八センチを測り、表面に縦方向の紐で縛った痕跡がみられました。蓋も残っていましたが、周囲は腐食していて、当初の規模は分かりません。ただ、つまみはT字形で裏面から鋲で固定されるものでした（図1B）。

注目すべきは賢瓶の中から紙包みが多数出土したことです。紙包みはほぼ大きさが同じで、長さ二．二センチ、幅二．〇センチ、厚さ一～二ミリに丁寧に畳まれており、表面に墨書が記載されています（図1C）。それぞれの紙包みの一面に墨書があり、「金」「銀」「真珠」「瑠璃」「瀬梨」と読め、「瑠璃」は青色の宝石もしくは青色のガラスのことです。「瀬梨」は「ハリ」と読み、玻璃＝水晶を指すのではないかと考えられています。つまり、金・銀・真珠・瑠璃・玻璃で五宝と理解できるのです。

次の一群は「人参」「茯苓」「赤箭」「石菖蒲」「牛黄」と読め、これらを薬品とみて五薬と理解できます。賢瓶に埋納されている五薬については、『霊宝館だより』一一五号から一一八号に、各種本草書の記載から「鬼」を意識したもので、賢瓶中に封じ込めた「鬼」の精を弱めて神に転じ、賢瓶の外へといざなおうとする説が示されています。詳しくはそちらを参照してください。

さて、もう一つの一群は、「丁字」「白檀」「鬱金」「沈香」「龍脳」と記載され、それらは香料で五香となります。この賢瓶中には小さく個別に包まれているもの以外に、やや大きめの紙袋が発見されていて、表面に梵字らしきものが記載されています。現状では三つに分裂していますが、本来は一つの袋であったとみられ、中に米、麦、豆、粟か稗などの穀類が確認されています。つまり、賢瓶の中には一つずつ包まれた五宝、五薬、五香と一つの袋にまとめられた五穀が確認されたのです。

地鎮遺構と区画

賢瓶を納めた土坑の位置を調査地点の中で確認してみますと、周囲に関連する埋納遺構は確認されないものの、細い溝でコ字形に区画された遺構の中心に位置している可能性があることに気が付きます。コ字形の

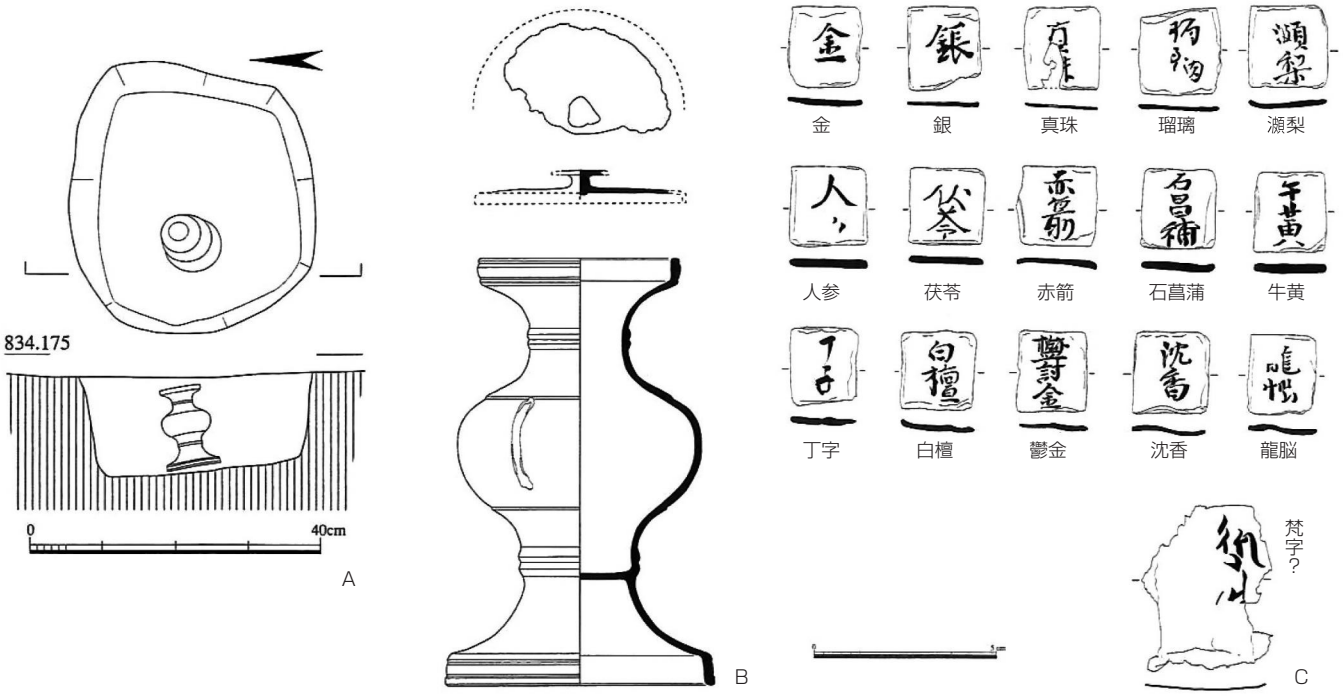


図1　賢瓶埋納土坑A（1/10）とその出土遺物B・C（1/2）

区画溝の北西隅と埋納遺構、同じく南西隅と埋納遺構をそれぞれ線で結んで東へ延長し、北辺の溝の東延長線と、南辺の溝の東延長線との交点を求めると、南北が約一二．六メートル、東西が約二五メートルになる少し歪んだ長方形の区画が浮かび上がります。この南辺には小穴列がありますが、建物には復原できないので、おそらくこの区画の内側に建物が存在したと考えられます（図2）。

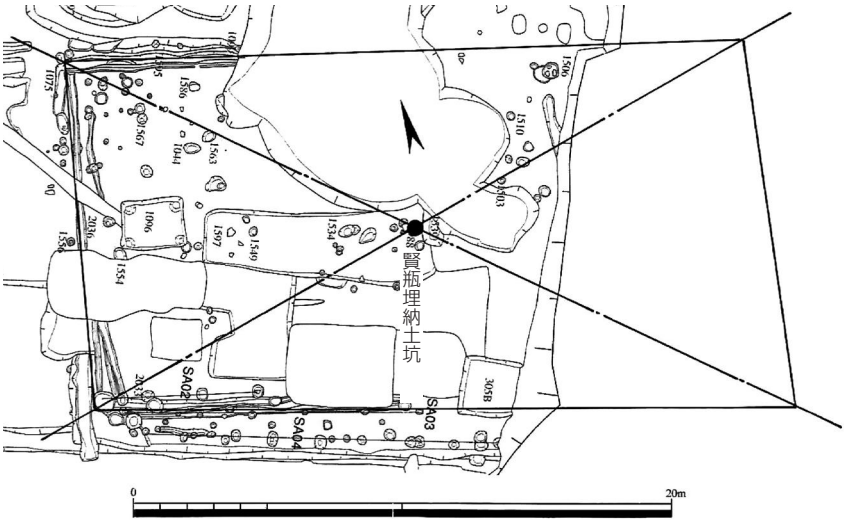


図2　賢瓶埋納土坑を用いた地鎮による結界推定範囲（1/300）

今回ご紹介した地鎮遺構は、その長方形建物を建てるのに際して、奉安されたものと推定することができます。つまり、般若院のなかで重要な建物がここにあったことを教えてくれています。

共通する地鎮の作法

前回紹介した大門跡で発見された、地鎮遺構の中央土坑内に安置されていた賢瓶からも五宝などが出土しています。おそらく般若院跡出土の事例も同じような作法によって土地が鎮められ、建物の安寧を願ったことでしょう。もし遺跡の保存状態が良ければ、四方に穿たれた地鎮遺構も、具体的な建物遺構も発見されたに違いありません。

宝性院、徳川霊台、大門、般若院それぞれに多少の差異は認められますが、真言宗の中で守り伝えられた共通する作法で、地鎮祭を執り行ったことが分かります。

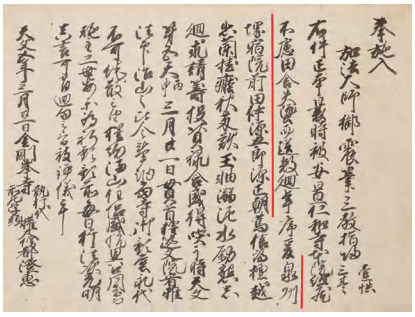
【参考文献】
伏見裕利二〇一五～二〇一六「賢瓶に納入されている五薬と鬼との関係」（その1～4）『霊宝館だより』一一五号～一一八号、高野山霊宝館
吉川義彦二〇〇五『高野山金剛峯寺遺跡発掘調査報告』関西文化財調査会

特集高野山

お大師さまから・お大師さまへ―『聾瞽指帰』の奉納―

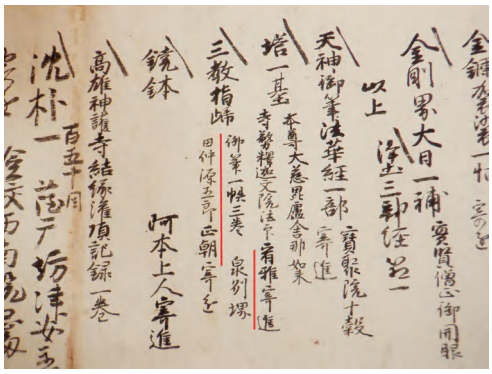
お大師さま（弘法大師空海）の真筆の書である『聾瞽指帰』（国宝、金剛峯寺）は、延暦十六年（七九七）、大師が二十四歳の時に記した書です。『三教指帰』という大師の書の草稿本とされています。戯曲風にまとめられた内容は、仏教、儒教、道教を比較して最後は仏教が優れているということを記します。大師の見事な書もさることながら、当時中国で流行していた文体「四六駢儷体」と古典を駆使しつつ独自性に富んだ文章力、細かな縦の筋目が入った「縦簾紙」という貴重な料紙の使用など、まさに国宝たるにふさわしい文化財です。

さて、『聾瞽指帰』は完成以来ずっと高野山にあったわけではありません。京都の大覚寺、西芳寺、仁和寺と移り、最後は天文五年（一五三六）三月二十一日、お大師さまがご入定された日に合わせて、高野山御影堂に奉納されました。このことは、『聾瞽指帰』下巻末の跋文と付属の施入状より判明します。（『霊宝館だより』一二六号、「高野山の文書」十三参照）



「聾瞽指帰施入状」　金剛峯寺

施入状によると、御影堂への奉納者は「泉州堺宿院前田仲源五郎源正朝」とあります。通説的には、「泉州堺宿院」（現在の大阪府堺市堺区）の「前田仲源五郎源正朝」という人物が奉納したとされます。後ろの「源正朝」は本姓と諱だと思われます。残りですが、「前田」が名字で「仲源五郎」が名前でしょうか。別の史料「御影堂霊宝目録」（国宝『又続宝簡集』六十二所収、金剛峯寺）という、天文十三年（一五四四）に作成されたとされる御影堂にあった宝物の目録に着目すると、その中に「三教指帰」とあります。これが『聾瞽指帰』に該当すると考えられますが、「泉州堺田仲源五郎正朝寄進」となっています。こちらでは名前に「前」がないのです。書き忘れかもしれませんが、もしかしたら「堺宿院前」の「田仲源五郎」なのかもしれません。



「御影堂霊宝目録」（国宝『又続宝簡集』六十二所収、金剛峯寺）一部

奉納者のいた堺は貿易都市としてにぎわい、西高野街道で高野山とも結ばれ、西国からの参詣者の立ち寄る町でした。江戸時代の書物『堺鑑』（衣笠一閑著、一六八四年刊）や『全堺詳誌』（高志芝巌・高志養浩著、一七五七年刊）によると、空海が唐より帰朝した際、堺北庄九間町に仮堂を建てたと伝わり、その後、高野山を往来する僧の宿泊所の役割を果たし高野堂と呼ばれ、のち堺宿院町に移り（いつ頃か不明）、その場所を転々としたとされます。また、永正十三年（一五一六）、大塔復興の勧進僧阿本は堺宿寺の中に勧進所を建て金剛三昧院より大師御影を借り受け祀っていました。天正十三年（一五八五）、木食応其（一五三六～一六〇八）は、人手に渡っていた堺の高野道場（高野堂）を買い戻し、同じく金剛三昧院より大師御影を借り受け祀っていました。このように当時、高野山と堺は無縁ではなく、その縁もあって『聾瞽指帰』も高野山へ奉納されたのではないでしょうか。

前述の施入状によると、奉納された際、山内の全僧侶が感激し、奉納者の二世（現世・来世）安楽祈願として、御影堂前での毎日の行法と光明真言の廻向を相談したとあります。春からの展覧会（1・2期に展示）では『聾瞽指帰』を展示予定ですが、「お大師さまから」だけでなく、「お大師さまへ」奉納された時の想いを感じながら、観覧していただければ幸いです。

（研谷昌志）

霊宝館日記 ②

収蔵庫

現在、高野山霊宝館では、間もなく開催します、令和五年度 宗祖弘法大師御誕生一二五〇年大法会記念展「お大師さまから・お大師さまへ」の開催に向けて準備を進めています。今回の展示品は、あらゆる時代のお大師さまから私たちに送られた宝物、またお大師さまへ捧げられた宝物が中心となった展覧会です。

展示室（本館と新館）に展示されている文化財は、当館が収蔵している彫刻、絵画、工芸品、書跡、民俗、考古といった約十万点の文化財の一部で、展示される時以外は、通常は収蔵庫の中にあります。

今回の記事では、高野山霊宝館にある四棟の収蔵庫について、建築された年代順にお話しいたします。

一棟目は、大正十年（一九二一）に建設された小宝蔵です（図1）。設計監修は神社建築の専門家の荻野仲三郎が、設計担当は明治神宮宝物館を設計した設計士の大江新太郎により、鉄筋コンクリート造りで建設されました。収蔵品は、当初は、彫刻、絵画などが収蔵されていましたが、現在は、高野山内で発掘された埋蔵文化財、主に大門、大師教会、尼僧学院、高野山霊宝館などの建物の建設に伴い行われた調査での出土品が収蔵されています。

二棟目は、昭和三十六年（一九六一）、大宝蔵が建設されました（図2）。収蔵品は、未指定文化財の彫刻、絵画、工芸品、書跡です。

三棟目は、昭和五十九年（一九八四）に建設された新館です。新館と言えば、展示室として普段来館者の皆さまが拝観に来られている建物ですが、実は収蔵庫を兼ねた形で建設されています（図3）。

四棟目は、平成十五年（二〇〇五）、国宝八大童子など、国指定の国宝や重要文化財を収蔵するために建設されました（図4）。

以上、私達は四棟の収蔵庫、また庫内の文化財の管理を行っていますが、一番肝心なのは、庫内の温湿度管理です。文化財の素材は、仏像は木製に合った、染織品は布に合った、仏具や刀剣などは金工品に合った、季節や天候を考慮した温度と湿度に調整します。

ですが、この調整は機械任せという訳ではなく、長年毎日記録してきた温湿度の記録、また記録日前後の週間天気などの気象情報を参考に、職員間でその情報を共有し、協議しながらその日の温湿度を調整しています。

また、適正な温湿度の調整を行うために空調設備がありますが、その設備点検、また庫内にカビが発生していないか、虫などの侵入はないかという点検も大事な仕事として行っています。

高野山霊宝館の仕事といえば、来館者の方々をお迎えする受付業務、展示室の展示業務が、来館者の皆さまが目にする職員の仕事ですが、実は皆さまと顔を合わせることのない、裏方での収蔵庫の管理が仕事の大半を占めています。

収蔵庫管理は、大変地味で、一般の皆さまにお知らせや広報する仕事内容ではありませんが、私たち職員は、お大師さまからいただいた、またお大師さまへ捧げられたさまざまな宝物を守り、後世に伝えていく取り組みをしています。

（鳥羽正剛）

図1　小宝蔵　大正10年（1921）竣工

図2　大宝蔵　昭和36年（1961）竣工

図3　新館　昭和59年（1984）竣工

図4　平成大宝蔵　平成15年（2005）竣工

高野山霊宝館からのお知らせ

◎令和4年度国庫補助事業報告

●重要文化財（建造物）金剛峯寺奥院経蔵1棟保存修理事業

令和2年度から3ヵ年計画で進められていた事業が完了しました。

事業費　18，919，656円
国庫補助金10，405，000円
県費補助金　1，064，000円
町費補助金　149，000円
所有者負担金7，301，656円

●重要文化財（建造物）金剛三昧院経蔵1棟保存修理事業

事業費　21，073，265円
国庫補助金13，697，000円
県費補助金　1，106，000円
町費補助金　166，000円
所有者負担金6，104，265円

●重要文化財（建造物）普賢院四脚門1棟保存修理事業

令和4年度に1ヵ年計画で進められていた工事が完了しました。

事業費　8，827，480円
国庫補助金　4，413，000円
県費補助金　551，000円
町費補助金　93，000円
所有者負担金3，770，480円

●文化財保存修理助成事業「紡ぐプロジェクト」国宝（美術工芸品）絹本著色阿弥陀聖衆来迎図保存修理事業

令和2年度より5ヵ年事業で進められている事業の2年目が行われました。

事業費　11，144，806円
国庫補助金　6，686，000円
紡ぐプロジェクト助成金　4，458，806円

◎令和5年度国庫補助事業

●国宝（建造物）金剛峯寺不動堂1棟保存修理事業（2ヵ年継続）

●文化財保存修理助成事業「紡ぐプロジェクト」国宝（美術工芸品）絹本著色阿弥陀聖衆来迎図保存修理事業（3ヵ年目）

事業費　11，075，653円
国庫補助金　6，645，000円
紡ぐプロジェクト助成金　4，430，653円

○ミュージアム法話（予定）

「ミュージアム法話」（お坊さんによる法話と展示解説）を、左記のとおり開催予定をいたしております。

5月20日(土)、6月3日(土)、
7月1日(土)、8月5日(土)、
9月2日(土)、10月7日(土)、
11月11日(土)
いずれも午後1時より約45分

○貸出情報

●武田氏館跡歴史館（山梨県甲府市）信玄公没後450年企画展「戦国大名武田信玄の遺産」

4月12日(水)～12月24日(日)
展示期間　6月14日(水)～7月31日(月)
未指定　厨子入弁才天十五童子像　成慶院
未指定　五鈷鈴　成慶院

●香川県立ミュージアム（香川県高松市）特別展「空海―史上最強、讃岐に舞い降りた不滅の巨人―」

4月22日(土)～5月21日(日)
国宝　諸尊仏龕　金剛峯寺
国宝　善女竜王像（定智筆）　金剛峯寺
重文　恵果阿闍梨像　西生院

●岡崎市美術博物館（愛知県岡崎市）NHK大河ドラマ特別展「どうする家康」

7月1日(土)～8月20日(日)
未指定　武田晴信像　持明院
未指定　武田頼勝妻子像　持明院

◎高野山霊宝館公式ユーチューブ

高野山霊宝館公式ユーチューブに、霊宝館長が展示解説を行う動画がアップされています。皆さま、チャンネル登録（チャンネル名「高野山霊宝館」）して、霊宝館収蔵の文化財の解説をお楽しみください。

◎記事の訂正

令和5年2月18日発行の「霊宝館だより」141号に誤記がございました。

左記のとおり、訂正させていただきます。

3頁「銅六器（灌頂道具類のうち）」と「国宝 紫紙金字金光明最勝王経巻第八」の所有者

誤「金剛峯寺」
正「龍光院」

◎友の会会員募集

・会員証提示で会員本人様のみ霊宝館と金堂・大塔の拝観無料
・霊宝館発行の季刊誌「霊宝館だより」送付

〈年会費〉
一般会員（個人）　3，000円
賛助会員（法人）　30，000円
皆様のご入会をお待ちしております。